

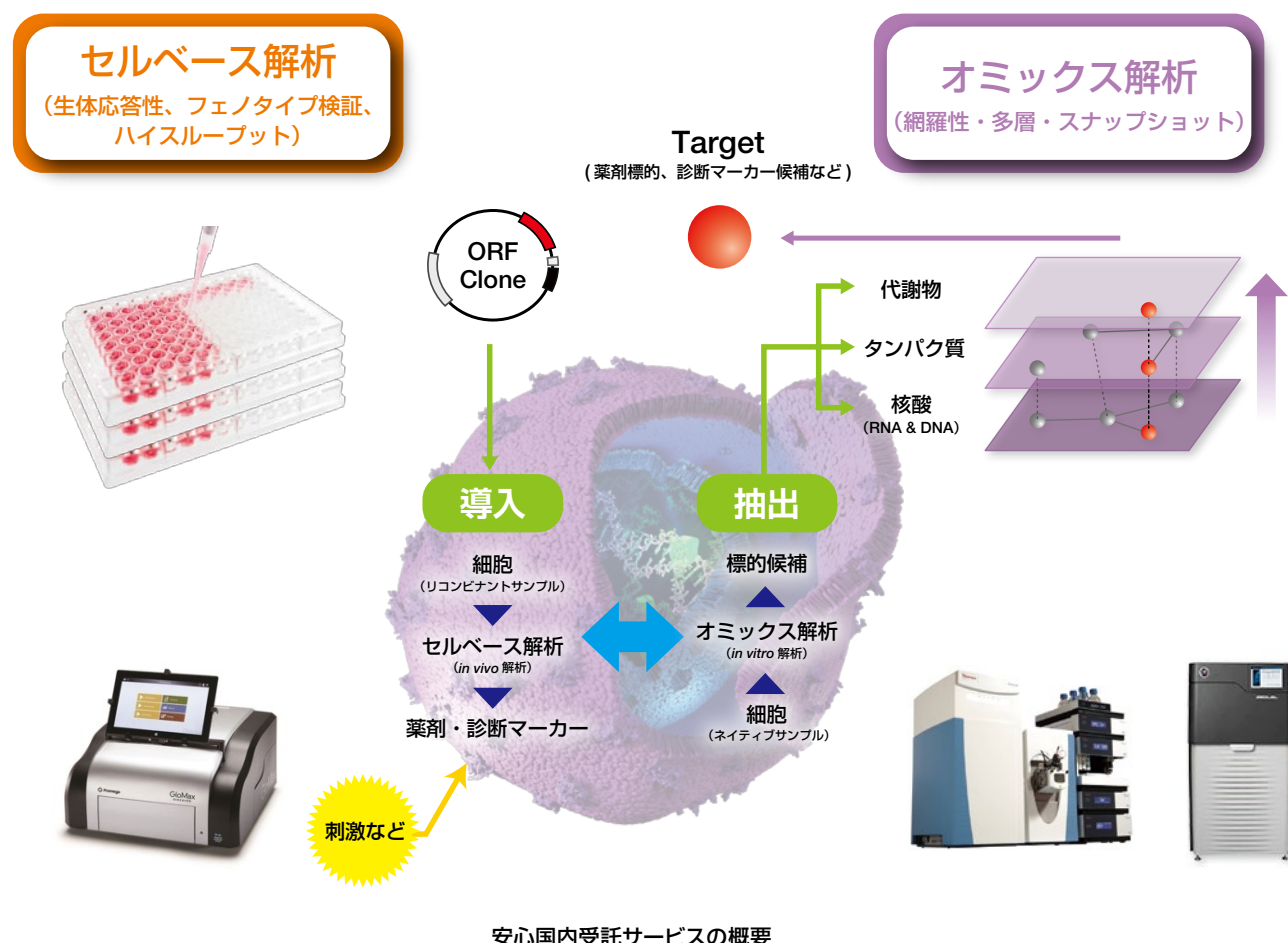
オミックス解析からの仮説創出とセルベース解析による 実証サイクルの必要性



公益財団法人かすさ DNA 研究所
副所長
ゲノム事業推進部長
小原 収 先生

近年のライフサイエンスの研究活動ではオミックス解析など仮説創出型のアプローチが多くとられています。しかし、これらの手法から網羅的で大量のデータが得られたとしても生物学的な意味が即座に得られる訳ではなく、細胞など生きた生体システムを用いた仮説検証型のアプローチとの両輪をうまく回転させることが非常に重要です。

現在汎用されている次世代シーケンサーや質量分析装置によるオミックス解析は、技術の進歩による恩恵を受け、従来個々の「点」を深く探る解析から「面」としてとらえる解析へとシフトし、生成される情報量も桁違いに増加し、多くの新しい知見を得ることができるようになりました。しかし、これらの手法は細胞を破壊し、その時点での生体分子を網羅的にプロファイリングできるという利点がある一方で、それぞれの系の「スナップショット」しか得られないという致命的な弱点もあります。こうしたオミックス解析の知見を細胞内の動的な反応と結びつけて仮説検証を進める上で、セルベース解析は一つの重要なツールとなります。プロメガは発光・蛍光タンパク質をレポーターとした様々な革新的な測定技術を保有されており、特にそのレポーターをなるべく内在性に近い状態で測定できるようにしたセルベース解析サービスを開始されました。これにより、細胞のターゲットを絞った動的挙動を発光・蛍光レポーターで測定し、細胞内でどのような生体分子の量的プロファイルの変化が生じているかをオミックス解析するという一つのサイクルが完結します。これら実験サイクルを回す上で多くの研究者の方がこれまで大きなフラストレーションを感じてこられた様々なギャップ（マンパワー、一時的に必要な機器、高額装置と運用スキル、専門的な解析技術）を埋める、様々なサービスをプロメガが創出し、日本の研究者の皆様にお届けし、ご期待したいと思っております。



安心国内受託サービスの概要



安心国内受託サービス総合サイト
www.promega.co.jp/products/jutaku/